

ねじりはちまき

12月 師走(しわす) 大雪、冬至の月になりました。

12月7日大雪、8日針供養です。冬至は22日で、天皇誕生日は23日、25日はクリスマスです。

暦の24節気の一つ大雪とは、陰気が積って雪となり、その様が一層はなはだしくなると言う意味で、文字通り降り積る大雪の事を指します。

この頃になると、西高東低の気圧配置が強まり、日本海側では雪が激しく降り始め、太平洋側は冬晴となり、乾燥した冷たい風が吹きつけます。

朝夕に池や川に氷を見かけ、霜柱を踏むようになるのもこの頃です。

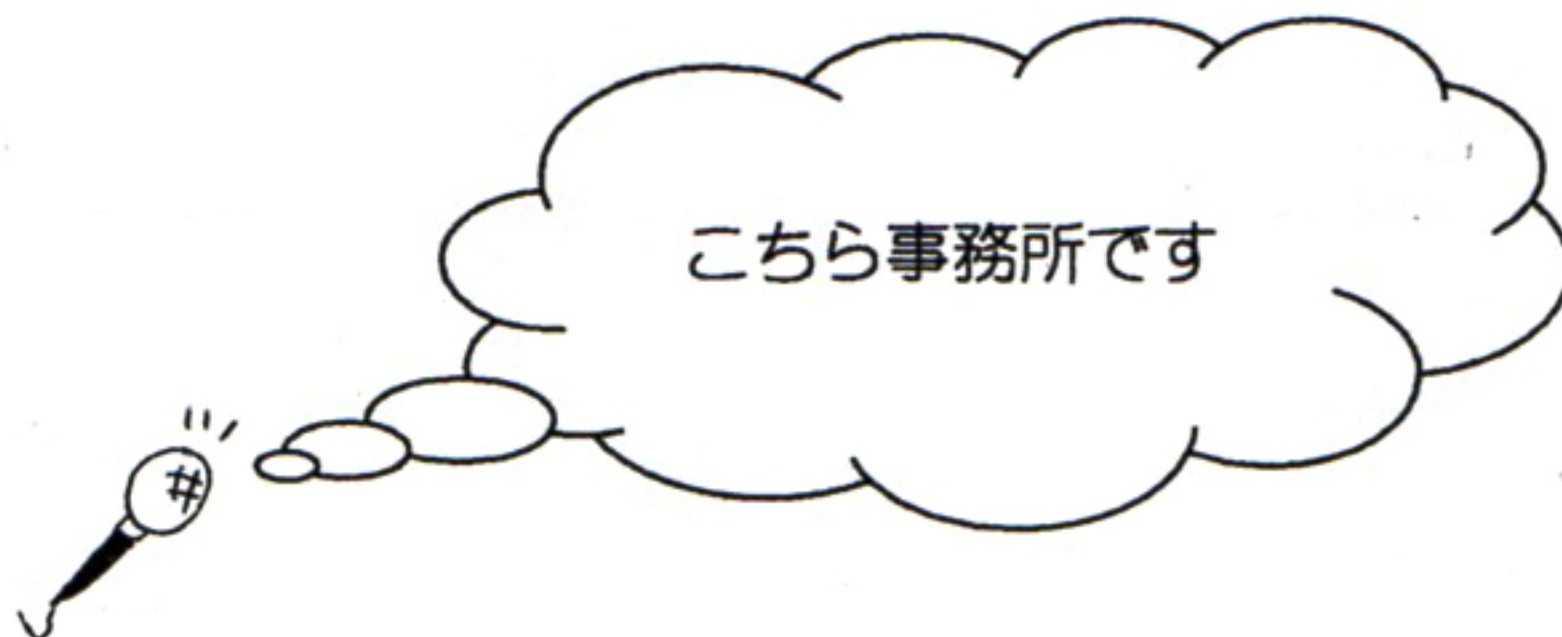
熊が冬眠に入るのもこのころだそうですね。

今年もあとわずかとなりました。

皆様からは有難い御声援を沢山頂きまして、誠に有難く厚く御礼申し上げますとともに、来る年もまた、よろしくお願い申し上げます。

寒さが厳しくなります。お体に気をつけて、良い新年をお迎え下さる事を、心からお祈り申し上げます。

幸田 常一



お世話になっております。

本宮市の住宅改修工事は、お陰様で完成いたしました。

現在、本宮市の現場で、住宅新築工事をお世話になっております。

こちらの現場は、来年春に完成となります。

また、事務所近くの現場で別の工事が始まりました。

こちらにも新築工事の現場です。

身辺雑感 44

「ケンシン」

私は、後期高齢者の仲間に入って10数年になりますが、首から上は半人前になってしまいました(耳が遠く成り、普通の会話も聞き取れない・つい先ほどの行動が思い出せない。)。しかし、首から下は年ほどの衰えをみせず元気旺盛です。週に2度ほどの頻度で畑に行き、野菜づくりを楽しみ、月に1度は親しい仲間と山登りをする等、歳の割には元気に人生を楽しみながら生活していると自負しております。

さて、この元気な生活を楽しむ事の出来るのはいろいろな要因が重なっている結果と思いますが、その1つに後期高齢者医療保険制度があると考えております。

この制度を我が国に導入する際、猛烈な反対運動が行われと記憶しておりますが、今考えると誠に有難い制度だと思います(以下 後期高齢者医療保険制度の健康診断を「健診」と書きます。)

過日かかりつけの医院で75歳以上(後期高齢者)の無料の健診を受けて参りました。この健診は、お医者様の診察、身体測定、尿検査、血圧測定(高血圧症のため毎朝1回降圧剤を服用中)、心電図作成、内視鏡検査(胃)、大腸ガン検査、胸部X線検査がその内容です。検査を受けた結果は、大腸にポリープがある(大腸ポリープは、10年程前から隔年ごとに内視鏡を使って摘出しており、経験上、不安はない。) 以外は異常なしとの事。大いに安心しました。以上の健診を受けた際、インフルエンザの予防注射もして頂きました(希望者のみ、料金は個人負担が1200円。この個人負担額は、各市町村で異なるらしい。)

この様に無料で健診をして頂きましたが、なぜこのような事が可能になったのか。それは科学技術の進歩(内視鏡製造の技術は、世界最高の水準に在ると何かの本に書いてあったと記憶しています。)、また、医学の進歩発展・それに加えて先人のひたむきな努力によって経済が飛躍的に伸びた(GTP世界で3位)事が挙げられると思います。その昔、若い人々の生活を守るため、高齢者を山に捨てる風習があった(深沢七郎著の短編小説「樞山節考」を涙しながら読んだ若い時代のことを思い起し胸が熱くなった。)とも言われて居ります。そのことを思うと、21世紀に生きる私共後期高齢者は、誠に有難い世界に生きていると実感いたします。

この様に、誠に有難い世の中に生きていることに感謝しながら、人様に出来る限り迷惑を掛けずに余生を過ごし、出来得れば、世の為、他人の為になんかお役に立てれば(心身の衰えてしまい、あまり自信はないが…)、との思いを強くしている次第です。

月をめぐる話し

太陽は人間が活動する昼間の存在、日照りが続いているの干ばつは困るが、太陽は生命を育む存在と思われている。日の出は拝まれる。夕日は西方浄土と拝まれる。一方、月は夜に姿を現す存在。星空もそうだが、我々はどれだけ月を見上げて、目にしているだろうか。中秋の名月くらいはつくづく眺めているだろうか。月は月の単位（正確には29.5日）で姿かたちが変わる。考えてみると、十五夜、十三夜、三日月、新月と変わるのをじっくり観察したことはない。が、ひとつだけ言えることがある。ある時、夕日が沈んで夕闇が迫ってきたころ、見上げた西空に宵の明星と三日月がランデブーかのようにその二つだけが並んで浮かんでいたのである。なぜか非常に感動したのを覚えている。今回は、月とは人間にとってどんな存在なのだろうか。どんな時に月の存在を身近に感じたのだろうか。それが歴史的にみてどんなに変遷してきているのだろうか。そんなことを連れずれなるままに辿ってみたい。月は太陽に対して太陰ともいわれる。陽と陰、対をなすものだ。月という字は三日月の形状を象形したものという。なぜ満月ではないのだろうか。欠けて見える、全身を丸見えにせぬところを良しとしたのだろうか。よくわからぬが面白い。月と切っても切り離せないのが、海の潮の満ち引きである。海を身近にしない者にとっては実感できないが、潮の満ち引きは月の引力（重力）による。満潮（大潮）は月の引力が強く働くとき（太陽の位置も関係する）で、干潮はそれが弱くなったときである。この月の引力がもたらす潮の満ち引きは、生物界にも大きな影響を与えている。大潮は満月と新月の前後、ひと月に2回訪れる。この大潮の時に潮が大きく動くが、これを利用して繁殖活動を営む生物が多いと学者はいう。特に大潮が昼間となる夏場は多くなるというのだ。一つの例だが、沖縄の西表島に「ウミショウブ」という海草がある。この海草は雌株・雄株に分かれているが、夏場大潮となると、その双方が開花して海面に浮上し、浮遊するなかで出会いを果たして受粉するというわけである。テレビでその出会いのシーンを見たが、とてもロマンチックで詩情を催すものであった。また、潮の干満に関係する樹木として、沖縄の「マングローブ」が挙げられる。これは前にも紹介したことがあるが、満潮時には海水に浸り、干潮時には干潟のようになる河口付近に生育する樹林である。マングローブは海水にも適応しながら、河川水の浄化作用を果たしていると同時に河川水の運ぶ栄養素をせき止め、干潮時の生態系を豊かにしてくれている。海水と淡水の双方に関わる不思議な存在である。月の引力に関するのもう一つ。樹木の水の吸い上げと関係あるというのである。ご存知だろうか。実は満月の時樹木は水を目いっぱい吸い上げるという。こういう時は樹木を伐採しない方がよい。何故なら水分を一杯含んでいるので乾燥が遅くなるからだ。こんなこともあるのかと思ってしまう。次は暦のことに移ろう。月の満ち欠けの周期を基にした暦を太陰暦（通常陰暦という）という。その周期を「朔望月」といい、1朔望月を1（ひと）月とする。そして小月（29日）と大月（30日）をそれぞれ6回とし、12ヶ月（睦月から師走まで）をもって1年とする。月数は太陽暦と同じである。太陰暦の1年は354日としているが、正確には354.36707日である。これは太陽暦の365日（地球公転周期は365.24219日）より約11日短い。太陰暦の解説になってしまったが、「なぜ月の満ち欠けの周期を基にした暦」が使われることになったのかが小生の関心事である。その解説が見つからない。考えてみれば、「月の満ち欠けの周期」を「一つの単位」とし、そこに「四季の変化」を加味すればわかり易いということがあったと思われるが、どうだろうか。「農事」のこともあり、「沿岸漁業」は潮の満ち引きと密接な関係があり、「年中の祝祭行事」もいつにするかも重要であったろう。「旧暦」といい方もあるが、太陽暦採用以前のもの、江戸期の「天保暦」（太陰暦とほぼ同じ）を指すということだ。二十四節気（立春、立夏、立秋、立冬など）は太陰暦と関係するかと思ったら違うようだ。節気は1太陽年を24等分し、その分割点を含む日に季節を表す名称を付したものであること

だ。暦の話はこの位にして、次は月の物語性に移ろう。月に関する記述は奈良時代に編纂された「古事記」の神話に登場する。イザナギの神が黄泉（よみ）の国から戻り、穢（けが）れを禊（みそぎ）払いをした時、右目を洗った際生まれたのが「ツキヨミ（月読）神」で、夜を治めよと命を受けるのである。因みに左の目を洗った際生まれたのが「天照大神」で、太陽神である。これまた陽と陰、昼と夜、うまく対をなしている。また、月といえば、竹取の翁夫婦に育てられた「かぐや姫」が、実は月の出身で、成人して求愛を受けるがいずれも断り、終に八月の満月の夜「月の都」に帰ってしまうという「竹取物語」がある。この物語は日本最古の物語で、作者・成立ともに不詳であるが、仮名で書かれ、平安時代初期までには成立したとされている。それと、「月にはウサギがいる」という伝承だが、何故そういう風に考えたものか興味が湧く。文献的には「今昔物語集」（平安時代末期の成立か）の説話の中に、帝釈天が捨身で火の中に飛び込んだウサギの慈悲行を見て、ウサギを月に昇らせた、という話があるそうだが、それが起源かどうかは定かではない。中国にも月の模様をウサギに見立てるところがあるそう。いずれにしても、「月見」をしている中で、いつしか日本人の感性が月の影をウサギに見立てるという風に動いたのかも知れない。しかも「ウサギが餅つきをしている」のである。月見は秋の季語。特に秋の月はくっきりみえる。月の影もけざやかだ。人々はあの月の影を何に喩えようと競い合ったかも知れない。そんな風流な御仁が集う舞台としては縁側がいい。そこで一杯やりながらというのもいい。縁側は「花鳥風月」をしみじみ味わう上では重宝である。そんなことを思ってみたがいかがだろうか。今年の中秋の名月（9月27日）は殊の外きれいに見えた。

冬至のカボチャ

22日は冬至ですね。

昔から、冬至にカボチャをいただく慣わしがありますね。

カボチャに豊富に含まれるカロテンやビタミンCが、これからの寒さを乗り切るための抵抗力をつけてくれます。

アズキと一緒にコトコト煮るとこ煮も、甘くておいしいですね。



今月の旬♡食材

「アピオス」

食べるといもみみたいな味です。

日本には明治時代に、りんごの苗木をアメリカから輸入した際、その土に混じって入って来たようです。

じゃがいもやさつまいもに比べると、糖質が多く、カロリーも高いのですが、ほくほくとしておいしいのです。

カルシウムが豊富で、イソフラボンも含まれています。

皮ごと塩茹でにして食べたり、天ぷらにしたり、アツアツのアピオスにバターをのせて、じゃがバターのようにして食べてもおいしいです。



<お知らせ>

年末年始休業のお知らせ

H27、12/30(水) ~ H28、1/6(水)まで

お休みさせていただきます。

ご迷惑をおかけいたしますが、よろしくお願いいたします。

尚、仕事始めの1/7(木)は平常通りです。

<会社近況>

12月に入りました。
何度か雪も降りましたね。これからますます寒くなります。
体調崩しませんよう、どうかお体大切になさって下さい。

本宮市の住宅改修工事は、お陰様で完成いたしました。
施主様には、これからは暖かい部屋で過ごせると喜んでいただきました。
工事中にも、労いの言葉をかけていただき、ありがたかったです。
本当にお世話になりました。^-^

また、本宮市の住宅新築工事の現場は、内部造作をしている段階です。
こちらのお宅は、小さな可愛いらしいお子さんたちがいるご家族です。
完成したら、子ども部屋を喜んで走り回ってくれるかな…
来春には、新居にお引越しです。
子どもさんたちの笑顔を思い浮かべながら、もうひとふんぱり、
頑張っまいます。
どうか、今後共よろしく願いいたします。

お陰様でねじりはちまきは、今月で200号を迎えることが出来ました。
第1号から、いろいろな方に助けていただいているお蔭です。
本当にありがとうございます。
心より感謝申し上げます。

来月からまた新たな気持ちで取り組んでいきたいと思っておりますので、
今後共ご指導下さいますよう、よろしく願いいたします。

* * * * *

平成27年12月5日発行
有限会社 幸田建設
<発行責任者> 幸田久美
〒969-1204
本宮市糠沢字八幡1-1
電話、 0243-44-3816

<後記>

12月はやることがたくさんあるので
あっという間に1ヶ月が過ぎてしま
いますね。少し早いですが、今年も大変
お世話になりました。皆様どうかよい
お年をお迎え下さい。

(事務員 k)